

意見広告

公益財団法人 国家基本問題研究所

理事長 櫻井よしこ
副理事長 田久保忠衛

高池 勝彦
小倉 義人
荒木 和博
五十嵐 徹
石川 弘修
伊藤 隆
井上 和彦
岩田 清文
梅澤 昇平
大原 康男
太田 文雄
大岩 雄次郎
織田 邦男
金田 浩康
北村 稔
加藤 秀昭
西岡 力
浜谷 英博

黒澤 聖二
島田 幸雄
斎藤 稔
佐藤 守
島田 洋一
すぎやま こういち
土田 龍太郎
鄭 大均
高橋 史朗
立林 昭彦
土田 博司
古庄 幸一
細川 珠生
山田 吉彦
山百地 章
渡辺 博夫
湯浅 太郎
屋山 太郎
利夫

入会案内

国基研は、皆様と志を共有し、より良い日本を築くため、広く会員を募集中です。入会御希望の方は郵便番号、住所、氏名、電話番号を明記して、葉書もしくはFAXにてご連絡ください。折り返し入会申込書をお送りします。ホームページからも入会できます。

葉書 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-1 平河町ビル 「国家基本問題研究所事務局」

FAX 03-3222-7821 URL <https://jinf.jp/>

国基研

検索



尖閣が危ない

5月、26時間。7月、39時間。10月、57時間。

中国海警局の公船が尖閣諸島（沖縄県石垣市）周辺の領海に侵入し、連續して居座った時間です。10月は最長でした。領海外側の接続水域を航行した日数も300日を超え、最多となっています。

わが国固有の領土にもかかわらず実効支配は風前の灯です。日本政府の度重なる「嚴重抗議」は、もはや中国の侮りを受けるだけです。

たとえ一片でも領土を奪われて動かない国は滅びます。わが国は敗戦時に北方領土を、占領下で竹島を奪されました。尖閣で三たび奪われるのを座視してよいのでしょうか。

バイデン氏は菅義偉首相との電話会談で、米国の日本防衛義務を定めた日米安保条約第5条の適用に言及しましたが、米側発表では尖閣に適用すると明示されていません。米国が自動的に尖閣を守ってくれるというのは幻想です。日本の国土を守るのはあくまで日本です。

政府は尖閣の自然環境調査を実施すると言いますが上陸はせず、空撮するだけです。中国を刺激しないという40年来の気概なき姿勢が中国公船の領海侵入を日常化させました。日本政府は尖閣に上陸し、灯台や無線中継施設、船だまりの整備など実効支配を目に見える形で行うべきです。

このままでは尖閣諸島は北方領土、竹島と同じ運命をたどります。私たちは黙つて見ていてよいのでしょうか。

